

原強プ第14号
平成31年1月9日

島根県知事 溝口善兵衛様

中国電力株式会社
代表取締役副社長執行役員
原子力強化プロジェクト長
小川司徳

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する
再発防止対策の進捗状況について（報告）

平成30年12月10日に開催された、第20回原子力安全文化有識者会議の議事概要について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第20回原子力安全文化有識者会議 議事概要

以上

第20回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 平成30年12月10日(月) 15時00分～16時50分
- 開催場所 松江市総合文化センター プラバホール2階 大会議室
- 出席者 [社外委員] 亀城委員, 児玉委員, 高尾委員, 豊田委員(座長), 野津委員
※梅林委員, 山浦委員は欠席
[社内委員] 小川原子力強化プロジェクト長, 平野副社長, 岩崎常務

○ 議事内容

1. 開会あいさつ(小川幹事)

- ・ただいまから、「第20回原子力安全文化有識者会議」を開催する。
- ・委員の皆さまにはご多用の中、本会議に出席賜りお礼申し上げます。
- ・当社は、点検不備問題や低レベル放射性廃棄物に係る流量計の不正事案のような不正を二度と起こさないという強い決意のもと、再発防止対策の確実な実施に取り組んでいる。今回も最初の議題として、その取り組み状況について説明させていただく。
- ・「低レベル放射性廃棄物に係る流量計の不正事案」については、原子力規制庁および自治体において、「再発防止対策が日常業務として定着している」ことを確認していただいたことから、独立した項目としての有識者会議への報告は今回で一区切りとする。なお、当社としては、今後も引き続き同種事案が発生することがないように、必要な取り組みを継続的に実施してまいります。
- ・2つ目の議題として、「当社の原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて」報告させていただく。今年度は「いきいきとした職場」の実現を重点として取り組んでいるので、主な取り組みについて報告させていただく。
- ・最後に、情報提供として、「2号機の新規制基準への適合性審査の状況」をはじめとする島根原子力発電所の状況について説明させていただく。

2. 議事

- (1) 「低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題」および「点検不備問題」に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて
- (2) 原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて

資料に基づき、電源事業本部部長 古川および原子力強化プロジェクト部長 安村から「『低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題』および『点検不備問題』に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて」および「原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて」を説明した。

主な意見は以下のとおり。

[再発防止対策の実施状況に対する意見]

- ・再発防止対策に向けて丁寧に、一生懸命取り組んでいる。
- ・不適合判定検討会への報告件数が年々増えているが、報告が出てきているということは風通しがよくなっているということで、非常によいことである。

- ・リスクを意識することが大事。例えば、不適合やヒヤリハットの中でリスクが高いものを毎日ひとつ抽出し、指差し呼称することによって、職場単位で大きな力を発揮し、安全に意識が向き、それが定着すると文化になる。
- ・ほめられることでモチベーションが向上するものである。人間だれでもそうだが、一生懸命したことを評価してほしいという気持ちがある。淡々とやることも大事であるが、節目節目ではよくやったということがあってもよいではないか。
- ・再発防止対策を継続して取り組むことは重要だが、何年かに一度は予期せぬ方向から問題が起きることを前提に取り組んで欲しい。電力共通の課題として、例えばAI技術を活用した危険性の芽をつむための予知の技術開発ができないかと期待している。
- ・相談しやすい職場雰囲気作りが大切である。LLW流量計の問題は、一人がため込んでしまったため、小さなミスが段々と大きなことになってしまった。ミスを小さいうちに摘み取るためにも、今以上に風通しのいい職場にしていきたい。
- ・神戸製鋼所や日産自動車などの他社事例を取り上げて話し合いをしているが、こういう事例を他山の石として押さえていくことが必要である。
- ・神戸製鋼所や日産自動車などの他社事例を取り上げた職場話し合い研修のアンケートで、「この研修が『報告する文化』『常に問いかける姿勢』の大切さを再確認し、現状に問題がないかを考えるきっかけとなったか」という設問に対して「他社事例の内容と『報告する文化』『常に問いかける姿勢』との関連性が理解しにくい」という意見が出ている。このような意見に対するフォローが重要である。

[原子力安全文化醸成に向けた取り組み全般に対する意見]

- ・稼働していないことが、モラル（士気）の低下につながりかねないと危惧している。他社の稼働しているプラントを見てみることはよい。
- ・PWRの稼働している発電所での実地研修は大切である。それに加えて、同じ停止中のBWR他社の若い人たち同士の意見交換なども士気の向上に役立つのではないか。
- ・経営層との意見交換はよいことである。経営層と若い人との世代の違いにより、意思の疎通を欠くことが危惧される。世代毎に思いを伝える役割を担った人を置いてはどうか。

(3) 情報提供：島根原子力発電所2号機 新規制基準への適合性審査状況について

(4) 情報提供：島根原子力発電所3号機 新規制基準に係る適合性申請について

資料に基づき、電源事業本部部長 岩崎から「島根原子力発電所2号機新規制基準への適合性審査状況について」および「島根原子力発電所3号機 新規制基準に係る適合性申請について」を情報提供し、質疑を行った。社外委員からは、地元に対して今まで以上に丁寧な対応を求める意見をいただいた。

3. 閉会あいさつ（小川幹事）

- ・本日は有識者委員の皆さま方には、長時間に渡り、再発防止対策をよりよいものにするという視点からのご意見をいただいた。
- ・さらに、地域への理解を得る努力、社内の風通しのレベルアップ、不適合管理の徹底、若い世代と

の認識ギャップの埋め方、他電力との社員レベルでの交流など色々なご意見をいただいた。

- いただいたご意見を基に施策の内容をチェックし、同じ取り組みをするならば少しでも有効なものにしていきたい。
- 地域、社会から信頼をいただける原子力発電所になることが最大の課題である。
- 今後ともご意見を賜りながら、レベルを上げてまいりますので、引き続きよろしくお願いする。
- 本日は、長時間にわたりご意見をいただき、感謝申し上げます。

以 上